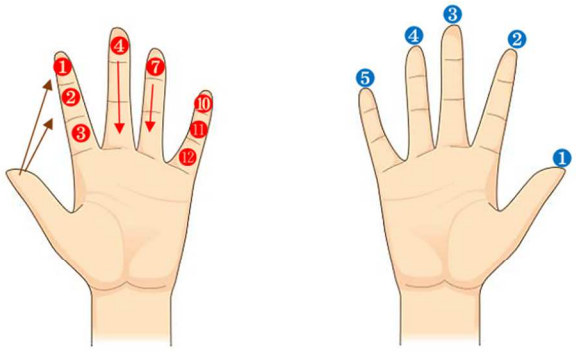
12 進法と 60 進法

12 進法や 60 進法を考え出したのは、紀元前 15 世紀頃に西アジアのチグリス、ユーフラテス河流域に住み、隆盛を極めていた、**古代メソポタミア**の**シュメール人**や**バビロニア人**（バビロニア人はシュメール人から多くの数学的知識を継承し、さらに発展させた）とされ、その初期の利用と発展に大きく寄与しました。

➲**１年は 12 ヶ月、1 日は 24 時間（＝12 時間×２）で午前、午後それぞれ 12 時間、1 時間は 60 分（12×5）、1 分は 60 秒（12×5）**と、12 がベースになって定められている。
➲**星座**は、**おひつじ座、おうし座、ふたご座、かに座、しし座、おとめ座、てんびん座、さそり座、いて座、やぎ座、みずがめ座、うお座**の 12 ある。
➲**干支**も、**子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥**の**十二支**ある。
➲新約聖書では、**12 使徒（ペトロ、ゼベダイの子ヤコブ、ヨハネ、アンデレ、フィリポ、バルトロマイ（＝ナタナエル）、マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、タダイ、シモン、イスカリオテのユダ**が登場する。
➲**ギリシア神話**には、オリンポス山の山頂に住んでいると伝えられる **12 神**（ゼウス、ヘラ、アテナ、アポロン、アフロディテ、アレス、アルテミス、デメテル、ヘパイストス、ヘルメス、ヘスティア、ポセイドン）がいる。
➲**英国や米国の陪審員**は 12 人、これは陪審員制度の起原となった 9 世紀初頭のフランク王国において 12 名の陪審員が立てられたことによるが、これはキリストの 12 人の使徒からきている。
➲**十二縁起　（十二因縁）**は、仏教が説く苦しみの元となるもので、**無明**（むみょう）、**行**（ぎょう）、**識**（しき）、**名色**（みょうしき）、**六処**（ろくしょ）、**触**（そく）、**受**（じゅ）、**愛**（あい）、**取**（しゅ）、**有**（う）、**生**（しょう）、**老死**（ろうし）をいう。
➲**1 ダースは 12 個、1 グロスは 12 ダース、12 グロスを 1 グレートグロス**という。
➲**角度**は**円の 1 周が 360 度（12×30）**ということになっている。
➲数字の表現方法で、英語で 11 は eleven、12 のことは twelve というが、13 以上になると thirteen というように「~teen」という表現が用いられており、10 ではなく 12 を区切りにしている。
➲中国皇帝の礼服に用いられる模様は十二章といわれ、日、月、辰（星座）、山、龍、華虫、宗彝（そうい）、藻（も）、火、粉米、黼（ほ）、黻（ふつ）をいう。

【参考】12 進法と 60 進法はこうして決められた（一案）



例えば、左の親指で人差し指の❶の部分、そして❷・・・と押さえていく（親指以外はすべてをうまく押さえることができない）と、小指の付け根で⓬となる。
そしたら、右手の親指❶を一つ曲げる。それを繰り返す（❶～❺）と 60 まで数えることができる、と古代のエジプト人やバビロニア人たちは考えた。
（❶・・・⓬）×5本（指）＝60
古代バビロニア人が数学・天文学で使用していた「12 進法」や「60 進法」（時間の単位）もこうして作られたと思われる。今でこそ10進法がメジャーですが、1ダースが12個なのは、この十二進法に由来しています。

NO COPY H.Taniguchi